

心理学科 卒業論文・評価ルーブリック

卒業論文	A. 知識・技能	B. 思考力・判断力	C. 表現力	D. 多様な人々との協創
1. 全体	専門的な用語や概念を適切に理解して用いている。	論旨が一貫しており、論理に飛躍がない。	指定された書式によって作成し、誤字や脱字、文法上の誤りがなく、分量も適切である。	他者との議論の中で、他者の意見に耳を傾け、参考にしようとする。
2. 序論	テーマに沿った適切な先行研究を検索し、参照している。	先行研究の知見や課題を適切に理解し、研究目的又は仮説を生成している。	自らのリサーチエスチョンを、先行研究の知見を論じながら、研究課題として論理的かつ客観的に表現及び展開している。	—
3. 方法	研究目的又は仮説を検証するための適切な研究法を理解している。	(実験・質問紙・観察・面接) 対象者の選定、刺激や測度等の選択又は作成、手続き等が適切である。 (文献研究) 目的に応じた適切な選択基準に基づき、国内外の文献を偏りなく抽出している。	方法を読むだけで追試（再現）ができるよう詳細に記述している（付録等に収載した説明文書、実験刺激や質問紙等がある場合はそれらも含む）。	(実験・調査・観察・面接) 参加者に対し、研究目的や個人情報の取扱いについて十分に説明し、同意を得たうえで、適切な配慮のもと研究を遂行している。
4. 結果	研究目的又は仮説を検証するために、適切な検定法やデータの整理方法を用いて、データを分析している。	(量的研究データ※) 検定等の結果に基づいて、客観的に記述している。 (質的研究データ※) 恣意的に、データを抽出したり、分類したりせず、客観的に記述している。	(量的研究データ) 適切な統計値や図表を記載している。 (質的研究データ) 図表を用いるなどして、結果をわかりやすく示している。	—
5. 考察	分析等の結果を適切に理解している。	分析等の結果に基づいて、研究目的又は仮説がどのように検証できたかを判断している。	先行研究等を用いて、根拠や理由を示しながら、論理的かつ客観的に考察している。	—
6. 引用	引用文献の表記方法を適切に理解している。	論文内での引用において、無駄な引用がなく、主従関係等の引用方法も適切である。	論文内で使用したすべての文献等が引用文献に記載されている。	—

※量的研究データ：実験法・質問紙法・観察法・面接法における数値データ、メタ分析等を行うための各先行研究の数値データ、テキストマイニングをするためのテキストデータ、記述データのコードやカテゴリーに関する一致率、など

※質的研究データ：質問紙法における自由記述内容、面接法における応答内容等、観察法における記録内容、日誌法等における記述内容、文献研究における各文献の記述内容、実験法における内省報告内容、など

心理学科 卒業論文・ルーブリック評価項目及び評価基準（案）

評価項目／評価基準		5	4	3	2	1
1.	全 体	1-A	適切	概ね適切	ある程度適切	やや不十分
2.		1-B	適切	概ね適切	ある程度適切	やや不十分
3.		1-C	適切	概ね適切	ある程度適切	やや不十分
4.		1-D	適切	概ね適切	ある程度適切	やや不十分
5.	序 論	2-A	適切	概ね適切	ある程度適切	やや不十分
6.		2-B	適切	概ね適切	ある程度適切	やや不十分
7.		2-C	適切	概ね適切	ある程度適切	やや不十分
8.	方 法	3-A	適切	概ね適切	ある程度適切	やや不十分
9.		3-B	適切	概ね適切	ある程度適切	やや不十分
10.		3-C	適切	概ね適切	ある程度適切	やや不十分
11.		3-D	適切	概ね適切	ある程度適切	やや不十分
12.	結 果	4-A	適切	概ね適切	ある程度適切	やや不十分
13.		4-B	適切	概ね適切	ある程度適切	やや不十分
14.		4-C	適切	概ね適切	ある程度適切	やや不十分
15.	考 察	5-A	適切	概ね適切	ある程度適切	やや不十分
16.		5-B	適切	概ね適切	ある程度適切	やや不十分
17.		5-C	適切	概ね適切	ある程度適切	やや不十分
18.	引 用	6-A	適切	概ね適切	ある程度適切	やや不十分
19.		6-B	適切	概ね適切	ある程度適切	やや不十分
20.		6-C	適切	概ね適切	ある程度適切	やや不十分

* 文献研究の場合、「3-D」は該当しないため (*1)、「1-D」の評価を2倍する (*2)。

(20項目×5点 = 100点)

*2

*1